



Press Release

2026年1月19日

報道関係者各位

会社名 第一三共株式会社

代表者 代表取締役社長 奥澤 宏幸

(コード番号 4568 東証プライム市場)

問合せ先 執行役員コーポレートコミュニケーション部長

朝倉 健太郎

TEL 03-6225-1126

「EZH1/2エピゲノム制御を標的とするがん治療薬の創製」を通じた 第8回日本医療研究開発大賞 内閣総理大臣賞受賞のお知らせ

第一三共株式会社(本社:東京都中央区、以下「当社」)は、東京大学大学院 新領域創成科学研究所准教授 山岸 誠 先生とともに、「EZH1/2エピゲノム制御を標的とするがん治療薬の創製」により、第8回日本医療研究開発大賞において内閣総理大臣賞を受賞しましたので、お知らせいたします。

日本医療研究開発大賞は、日本のみならず世界の医療の発展に向けて、医療分野の研究開発の推進に多大な貢献をした功績を称えるものです。医療への国民の关心と理解を深めるとともに、研究者等のインセンティブを高めることを目的として、2017年度より表彰が行われており、今回で8回目となります。内閣総理大臣賞は、極めて顕著な功績が認められる事例1件に対して授与されます。当社は、2023年8月に抗悪性腫瘍剤「エンハーツ[®]」の創製等を含む「DXd ADC技術(革新的抗体薬物複合体*技術)の開発による新規がん治療薬の創製」で本賞を受賞しており、今回の受賞は2度目となります。

本受賞は、T細胞リンパ腫の発症・進行メカニズムとして、エピゲノム異常、特にヒストンメチル基転移酵素EZH1およびEZH2(以下、「EZH1/2」)によるヒストンの過剰なメチル化が関与していることを明らかにした山岸 誠 先生と両酵素の阻害剤研究を実施していた当社が、産官学連携により世界初のEZH1/2阻害薬バレメトスタット(抗悪性腫瘍剤「エザルミア[®]」)を開発したことが高く評価されたものです。また、再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫および末梢性T細胞リンパ腫を対象に世界に先駆け日本で早期承認を取得し、より多くの患者さんの治療に貢献していること、他のがん種や併用療法に関するバレメトスタットの研究開発が進むことでがん治療へのさらなる貢献が期待できること等も、高く評価されました。表彰式は2026年1月16日に首相官邸にて開催され、高市 早苗 首相より授与されました。

当社の代表取締役社長 兼 CEOの奥澤 宏幸は、「この度、山岸 誠 先生とともにこのような名誉ある賞を受賞できたことを大変光栄に思います。本共同研究は、T細胞リンパ腫という難治性希少がんの疾患

メカニズムの解明から世界初のEZH1/2阻害薬の創製まで、産官学が一体となって推進したものです。今後も、患者さんに革新的医薬品を迅速にお届けし、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献できるよう、研究開発に積極的に取り組んでまいります。」と述べています。

以上



※授賞式には、当社代表取締役会長の眞鍋 淳が出席しました。

* 抗体薬物複合体(ADC)とは、抗体と薬物(低分子化合物)を適切なリンカーを介して結合させた薬剤で、がん細胞に発現している標的因子に結合する抗体を介して薬物をがん細胞へ直接届けることで、薬物の全身曝露を抑えつつがん細胞への攻撃力を高めています。